

## 1. 略歴

1984年3月	お茶の水女子大学文教育学部哲学科 卒業（倫理学専攻）
1984年4月	東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学（倫理学専門課程）
1986年3月	同 修了
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科博士課程進学（倫理学専門課程）
1991年3月	同 単位取得退学
1991年4月	山口大学人文学部日本思想史学講座専任講師
1994年3月	東京大学大学院人文科学研究科において博士号（文学）を取得
1995年7月	山口大学人文学部日本思想史学助教授
1996年4月	お茶の水女子大学文教育学部哲学科助教授（倫理学専攻）
2007年4月	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授（比較社会文化学専攻思想文化学コース） （改組に伴う配置換え）
2011年1月	同 教授
2013年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

倫理学原理論・日本倫理思想史・比較思想

### b 研究課題

日本思想の倫理的考察

### c 概要と自己評価

倫理学の中心問題である「何をなすべきか」という行為に対する問いを、その基盤となる「人は何であるのか」「世界は何であるのか」という存在の問いにまで遡って考えることを目指す。研究方法としては、日本語で書かれたテキストの思想構造を解明することを通じて、その世界観、人間観を検討するとともに、背後にあるコンテキストも探る。具体的には、道元、法然、親鸞、日蓮、盤珪、白隠などの日本仏教の思想を中心として、日本思想を幅広く扱っている。特に、和辻哲郎の倫理学、倫理思想史の方法について検討し、「間柄の倫理学」には取まらない超越との関係という側面から、新たな日本倫理思想史の構築を目指す。なお、和辻倫理学の対抗軸として、現在、日本民俗学の諸思想家（柳田國男、折口信夫など）を検討中である。これまでの研究は、個別思想家についてを中心としてきたが、今後は、それらを踏まえて新たな日本倫理思想史の構築に関する研究の比重を増やす予定である。

### d 主要業績

#### (1) 論文

頼住光子、「倫理・道德教育の目指すもの—倫理学・日本倫理思想史研究の立場からの一考察」、『倫理道德研究』第二号 日本倫理道德教育学会、2019.3

頼住光子、「和辻哲郎の思想形成と宗教—初期の作品を手がかりとして—」、『倫理学紀要』第26輯 東京大学文学部倫理学研究室、2019.3

#### (2) 学会発表

国際、頼住光子、「道元の思想構造」、道元研究国際シンポジウム「世界の道元研究の現在」、2018.7.21

国際、頼住光子、「道元の時間論」、時間学国際シンポジウム2018「中世日本の時間意識」（通称TIMEJ）、2018.8.2

国内、頼住光子、「中世から近世へ——道元の時間論から見た円山道白における「復古」について」、日本思想史学会創立50周年記念第2回シンポジウム、2018.10.13

国内、頼住光子、「倫理・道德教育の目指すもの—倫理学・日本倫理思想史研究の立場からの一考察—」、第3回日本倫理道德教育学会研究大会公開シンポジウム：テーマ「これからの日本社会における倫理教育・道德教育の正当性の基盤について考える」、2018.10.20

国際、頼住光子、「日本思想における共生」、中國文化大学日本研究中心発足記念国際シンポジウム、2019.3.14

国内、頼住光子、「道元における瞑想」、大正大学学術助成研究会：「科学における意識の問題への現象学的・唯識思想的アプローチとその現代的課題について」、2019.3.16

国際、頼住光子、「道元の自然観」、International Conference “Does Nature Think?” 「自然は考えるのか?」、2019.6.7

(3) 啓蒙

頼住光子、「和」について、『中等教育資料』令和元年5月号、No.996、文部科学省教育課程課編集、学事出版株式会社、2019.5

(4) 会議主催(チェア他)

国内、「日本仏教総合研究学会研究例会」、2019.7.28

(5) 教科書

『改訂版 現代の倫理』、頼住光子、編集委員、山川出版、2018

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、お茶の水女子大学、「倫理思想史特殊講義BI」、2019.4～2019.8

非常勤講師、慶應義塾大学、「哲学倫理学特殊IE」、2019.4～

非常勤講師、慶應義塾大学、「日本倫理思想」、2019.4～

(2) 行政

省庁、文部科学省、教育政策、科学官、2018.4～